

2013年版 全国体操小学生大会体操競技適用規則（男女共通）

平成 25年 11月 21日

公益財団法人 日本体操協会

審判委員会体操競技男女審判本部

本大会は小学生の体操競技愛好者を増やすために、運動の難しさを追求するものではなく、基本技術の習得と体操的な美しさを求めながら体操の楽しさを知ってもらう「競技の普及を目的とした大会」である。よって、FIGが提唱する体操競技のあり方を理解しつつ、現行の採点規則を一部流用しながらも大会独自の採点規則を定める必要性がある。

そこで、本大会はこれまでどおりに10点満点を継承しながら、選手の能力に見合った演技構成をもってその実施を中心に評価する、いわば「出来ばえを競う大会」とする。特に、加点領域を設け、選手の良いところを見い出しながら、良心的かつ教育的な評価を下し、体操競技に対する興味と関心を高めることを主旨、目標とする採点規則を定めた。

具体的には、演技は6技（要素）をもって価値部分を満たしA難度未満の技も価値として認める。もちろん、B難度以上の技も認めるが、これは難度志向に走ることを推奨する訳ではない。また、短い演技に対する実施領域の減点は適用しない。すなわち、1技～5技の演技であっても、その実施に対して忠実に、できるだけ高い評価を与えることとする。要するに、本大会の主旨を踏まえ、小学生愛好家が将来にわたって体操競技を続けて行く意欲をもたせることができる規則とした。

なお、この規則に記載されていない規則については、現行の採点規則が準用されることとなるが、選手にとって有利な措置、評価になるよう臨機応変な対処を行うこととする。

2013年版 全国体操小学生大会体操競技適用規則 (男女共通)

I. 採点の基本方針

1. 大会の主旨にのっとり小学生の発達過程において、技の難度にとらわれることなく演技実施を重視した評価をする。
2. 演技が美しくのびのびと正しく行われているか、その演技実施の習熟度を評価する。
3. 演技の良い部分に対しては、積極的に加点する。

II. 演技の採点

第1条 演技の原則

1. 演技内容は選手の能力に相応していなければならない。
2. 演技は理にかなったやり方で、美しくのびのびと実施されなければならない。

第2条 得点の構成および価値部分の要求

1. ゆか、円馬、鉄棒、段違い平行棒（単バー）、平均台の演技は、次の配点により構成される。
 - ・演技は次の採点要素によって構成される。

a) 価値部分	3.00
b) 演技実施	6.00
c) 加点	1.00
可能な最高得点	10.00
2. 価値部分の要求
 - ・価値部分で最高点を得るために、跳馬以外の種目において次の要求を満たさなければならない。6つの価値部分（1つの価値部分につき 0.50×6 部分=3.00）
 - ・現行の採点規則の難度表に記載されていない技（女子は、変更規則Ⅱで認められている技）も価値部分として認める。
 - ・難度表に記載されていない技の例
 - 男子ゆか：ロンダート、前転、後転、開脚前転・後転 等
 - 男子鉄棒：逆上がり、足かけ上がり、懸垂振り出し 等
 - 段違い平行棒（単バー）：前振り1/2ひねり（水平以下） 等

第3条 演技の構成要素

1. 価値部分と繰り返しの認定
 - ・ゆか、鉄棒、段違い平行棒（単バー）、平均台において同一技は2回（1回の繰り返し）まで価値部分として認める。
 - ・同一技が3回以上実施された場合は、3回目からは価値部分として認定しない。繰り返しによる減点はしないが、実施減点はあり得る。同一技が3回以上連続された場合も同様とする。
 - ・難度表の同一番号の技であっても、姿勢などが異なるものは別の技とする。

2. 難度の制限を設けない。
3. 実施される価値部分は、以下の要素を考慮する。ただし、要素不足に対する減点はしない。

男子

- a) ゆか
 - ・倒立、バランス技、柔軟性を表現する技、回転系の技
 - ・演技時間：70秒以内（60秒と70秒に音で合図をする、時間の超過に対する減点はしない）
- b) 円馬
 - ・閉脚の両脚旋回を主体とし、開脚旋回など円馬上で実施可能な技
 - ・円馬においては同一技の繰り返し制限を適用しない。例えば、両脚旋回6回以上連続もすべて価値部分として認める。
- c) 鉄棒
 - ・懸垂振動技、鉄棒に近い技、終末技

女子

- a) 段違い平行棒（単バー）
 - ・振動技、支持回転技、終末技
 - ・高バーのみ、低バーのみ、あるいは移動を認める。
- b) 平均台
 - ・ダンス系の要素、アクロバット系の要素、終末技
 - ・演技時間：90秒以内（時間の超過に対する減点はしない）
- c) ゆか
 - ・演技時間：90秒以内（時間の超過に対する減点はしない）
 - ・ダンス系の要素、アクロバット系の要素
 - ・音楽の伴奏は可とする

第4条 演技実施（欠点と減点）

小欠点 0.1

中欠点 0.2

大欠点（落下、転倒） 0.3

- ・鉄棒、段違い平行棒（単バー）において構成上必要な停止・中間振動は、それが正しい技捌きで美しい姿勢により実施された場合は減点の対象とはしない。

第5条 加点

優れた実施に対して1.00まで加点を与えることができる。

- a) 様々な要素の美しい姿勢や表現に対して
 - ・つま先、膝、腕や頭の保ち方、体線、つま先立ち等
- b) 雄大性のある実施に対して
- c) のびのびとした勢いのある実施に対して
- d) 着地が止まることに対して

第6条 跳馬の採点

1. すべてのとび方の基礎点を9.50とする。

2. 1演技とする。(2助走まで)

3. 加 点

優れた実施に対して0.50まで加点を与えることができる。

- a) 美しい姿勢の実施に対して
- b) スピード感のある実施に対して
- c) 突き放しのある雄大な跳越に対して
- d) 着地が止まることにに対して

Ⅲ. 補 足

1. この適用規則に記述されていない事項に関しては、現行の採点規則(日本体操協会)に準ずる。

2. 補助および補助マットについて

- ・ 事故防止と選手の精神的援助のため、ゆかを除く種目において2名までの補助者が立つことが許される。また、ソフトマットの使用も許される。しかしながら、第1条自由演技の原則1「演技内容は選手の能力に相応していなければならない」は厳守しなければならない。
- ・ 鉄棒、段違い平行棒(単バー)においてマットを重ねることによって高さを調整することを認める。マットを重ねることに対する減点はしない。

3. 男子の禁止技について

- ・ 宙返り転の技(後ろとびひねりからの技を含む)
- ・ 後方2回宙返りにひねりが加わった技
- ・ 前方2回宙返り(2回宙返りにひねりが加わった技)
- ・ 後方および前方3回宙返り

4. 器械寸度(高さは床面から)

ゆ か : タンブリング板18m

円 馬 : 高さ60cm

跳 馬 : 高さ1m10~1m25cm(男女共通)

鉄 棒 : 高さ2m60cm

段違い平行棒(単バー) : 高バー2m50cm 低バー1m70cm

平均台 : 高さ 1m25cm